

奥州街道

おうしゅうかいどう

白石市—片倉領—

宮城県南口から
越河宿—斎川宿—白石宿—宮宿へ

参勤交代が整えた五街道
人々と文化が行き交う東北の大動脈、
奥州街道が紡いだ歴史に触れてみよう。

発行 一般社団法人 白石市観光協会
協力 白石街道研究会
「片倉家知行地絵図」(蔵王町教育委員会蔵)

奥州街道

江戸時代、参勤交代の制度が確立すると全国的に交通網が整備された。江戸日本橋を起点として東海道、日光街道、奥州街道、中山道、甲州街道の五街道が設けられた。

奥州街道においては、日光街道終点の白河宿から北は、青森・津軽半島の三厩まで続き、各地の大名が整備・管理を任された。東北太平洋側の諸大名の参勤交代や、商人・庶民などの通行で賑わった。19世紀初めには函館奉行所が置かれ、北辺の警備の必要性から交通量が増えた。

【片倉領奥州街道各宿場間の距離】

※1里=36丁(町)≒4km、1丁(町)=60間≒109m、1間≒1.8mとして計算



一里塚

幕府は日本橋を起点として主要街道に一里塚「一里は36町(約4km)」を設けて、旅人にとって距離の目安とした。また街道沿いには松などが並木状に植えられ、木陰では休息の場となった。一里塚は9m四方の円錐状の土盛りであった。白石は江戸から80里(320km)。その一里塚は田町口付近にあったと言われている。

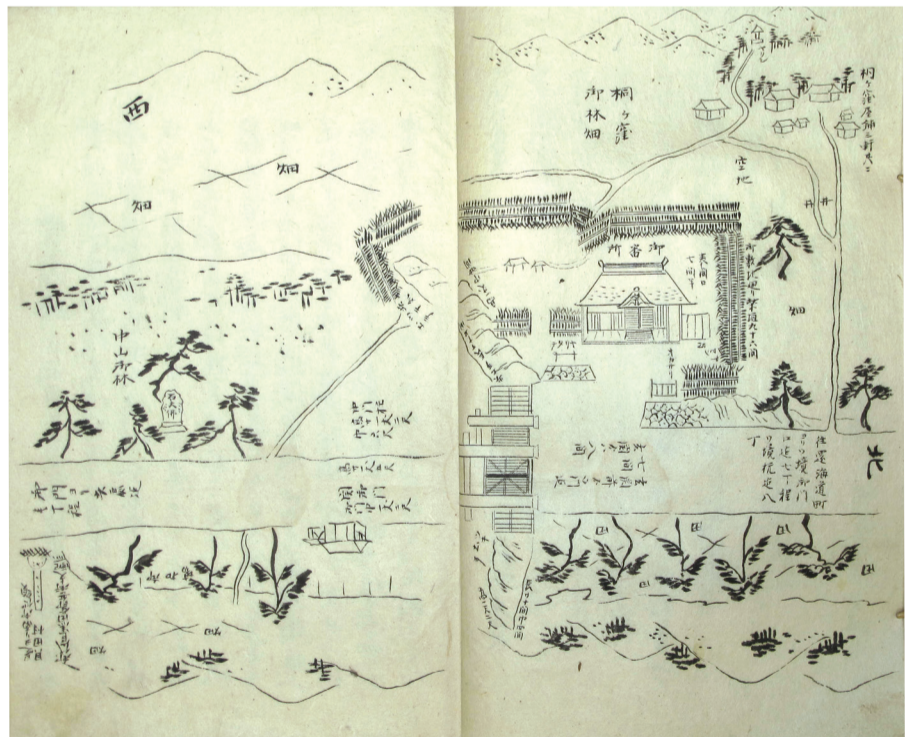
宿場(宿駅)と検断の役割

片倉領の奥州街道には、越河宿、斎川宿、白石宿、宮宿の4つの宿場があった。宿場は「検断」の支配下で、村の部分は「肝入」の所管である。「検断」は、奥州街道に関わる仙台藩の役割を担うことから仙台藩の任命となるが、片倉領内は「一円知行」であることから、片倉家も関与した。なお、白石宿は6つの町(新町、短ヶ町、互理町、長町、中町、本町)があり、交代で宿場の役割を果たしたとされるが詳細は不明なところが多い。

「検断」の役割は「人馬継立」を円滑に行うことで、検断屋敷の「問屋場・役所前」では通行人の往来や商品等の輸送を取り締まっていた。伝馬制度の下で、幕府役人などの公用旅行者には無償で、私用の旅行者にはその時の相場で人馬を貸し与えた。奥州街道では、各宿場に「人馬、25人、25匹」を常備することが通例とされていたと言われている。

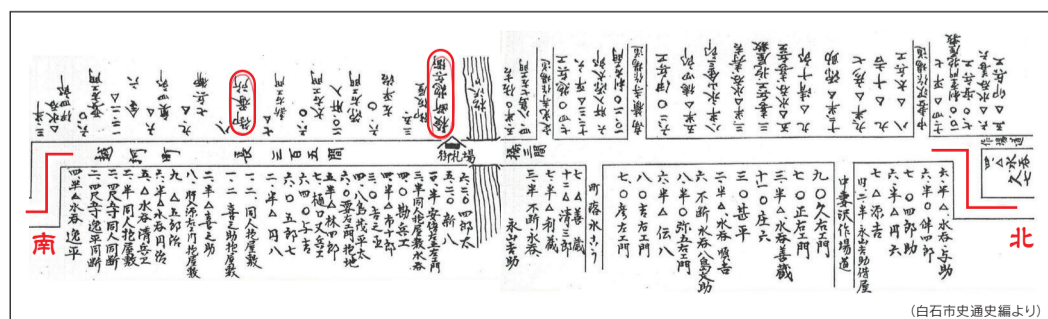
宿場内には本陣その他の旅籠屋や木賃宿があり、旅人の休憩や宿泊に利用された。宿場の出入口の道路は鍵型(L字型)になっており、見通しが利かなくなっている。道路は3間(約5.4m)とされ、中央には町中堀と呼ばれる堀割があり、左右の道路の進行方向が分けられるなど人馬の通行に便宜を図っていたものと考えられる。町中堀は明治の初めに全て埋められた。

越河御番所の「絵図」



「奥州仙台領遠見記 全」 仙台市博物館蔵

越河宿



越河宿の図。越河御番所が宿場の中にあるので、江戸時代初期の絵図と思われる。後に、福島藩との境付近に移っている。検断屋敷は宿場の中央、松沢川の側にあった。宿場の出入口は鍵型になっていて防衛上の工夫が見られる。



○御宿印販売所
・越河宿、斎川宿、白石宿 … 白石城歴史探訪ミュージアム
・宮宿 … 蔵王町観光案内所(遠刈田温泉)
※いずれも1枚300円で販売しています。

片倉領 奥州街道と宿 (宮城県南口から越河宿—斎川宿—白石宿—宮宿へ)

刈田嶺神社 (白鳥大明神)

神山刈田嶺を祀る神社として延喜式神名帳に記されている。青麻山頂にあったが山麓の西宮に遷座し、さらに現在地に遷座している。江戸時代には白石城主片倉家の祈願神社として信仰され、また仙南一帯の白鳥信仰の中心地でもある。



白堤防からの松並木

昭和30年頃、白石と宮の間はコンクリート舗装で白堤防と呼ばれ、松並木であった。遠く蔵王の雄姿が見られる。昭和20年頃に軍が松根油を採るために多数伐採された。



陣場山

1600年に伊達政宗が豊臣方の所領だった白石城を攻撃するために置いた本陣跡。1868年戊辰戦争時官軍の世良修蔵(仙台藩士に暗殺される)の墓がある。俳人松窓二の歌碑がある。

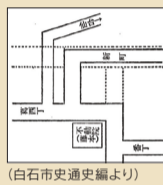


新しい有志丁の現在の道路 (黒線)

奥州街道は仙台方面からは大きく西に曲がって新町から白石町内に入っていたが、明治18年交通事情が変化すると、有志の協力により白石大橋から一直線に亘理町を結ぶ道路ができ、便利になった。

奥州街道宮口の入口 (新町)

白石城下に入るためには、コの字(鍵形)に曲がりながら通過する必要があった。またここに不動院が配置され、敵の侵入を監視し、防御の役割を果たしていた。



白石城

仙台藩の重臣片倉小十郎の居城である。幕府の「一國一城令」にもかかわらず仙台城の他に認められた。「一円知行」を認められ、街道の管理にも関わった。



東京街道道標

石碑は旧奥州街道の田町口(曲がり角)にあり、「一級道路東京街道」と「此方二等道路米澤街道下戸澤駅工出テ」と彫られている。「東京街道」は斎川方面へ、「米沢街道」は森合村から鉢森山を越え、小原から下戸沢、七ヶ宿街道から米沢への街道である。(現在は移設され白石中学校校門前にある)



錠摺坂 (あぶみすりさか)

田村神社の南裏山にある。この坂道は錠がすれる程道幅の狭い急な場所で、人馬にとっては曲がりくねり険しい難所であった。



越河の道路元標



越河は「距仙臺元標十五里」と刻印。仙台の起点「芭蕉の辻」から60kmである。

斎川の道路元標



「距仙臺元標十四里」と刻印。仙台の起点「芭蕉の辻」から56kmである。

田村神社

田村神社は、坂上田村麻呂將軍の蝦夷征伐を偲んで建てられたとされている。神社内にある甲冑堂は源九郎義経の家臣継信、忠信兄弟の妻楓、初音の女武者の木造がある。



斎川宿

長さ: 3丁22間 (約367m) 軒数: 30軒

江戸時代前から宿駅としての機能を持っていたと言われている。周辺には源頼義が伝説の神社仏閣がある。



越河宿

長さ: 5丁23間 (約587m) 軒数: 33軒

検断屋敷は町中央にあり、江戸時代当初は、越河御番所も近くにあった。仙台藩の最南端の宿場である。



下紐の石

道路の整備に伴い、県境の国道4号の東側にある。その昔、用明天皇と玉依姫との伝説に由来する。「歌枕」として都の人々にも慕われた。藩政時代には近くに越河御番所が置かれた。



越河御番所跡

見町

